

平成24年4月20日



研究だより

第31号

自治医科大学附属さいたま医療センター

私の研究歴

アレルギー・リウマチ科 教授 寺井 千尋



今回、順番なのか巻頭言執筆の役が巡ってきた。皆様にご披露できる華々しいキャリアはないが、参考にもなればと私の研究歴についてご紹介したい。私の研究のテーマは一貫性にかける。とって毎年コロコロ変わるほどではないし、広くリウマチ学の研究をしているといえば、それはそれで一貫している。敢えて言えば、遺伝的要因が疾病の発現にどう関連するかに興味があった。

卒業後は母校の腎臓病・膠原病の研究室に所属した。そこでは赤血球膜上の補体レセプターは免疫複合体除去の役割を担い、その数が遺伝的支配をうけ、全身性エリテマトーデスの患者ではそれが低下しているのではないかが研究テーマであった。当時、遺伝子解析はまだ行われず、レセプターに対するモノクローナル抗体で膜タンパクの分子数を測定するような時代であった。

まもなく東京女子医科大学に移動し、関節リウマチや痛風の臨床が中心になった。途中で3年間留学した米国La JollaのScripps研究所では、単球・マクロファージの増殖能をプリン・ピリミジン代謝の面から研究するものであった。当時、でたばかりのHIVの単球系への感染やリンパ球のアポトーシスを同じ手法で解析した。

しかし留学中のテーマは基礎的に過ぎて、帰国後に臨床で継続するのは困難であった。ふたたび関節リウマチや膠原病を診ていく中で、それらの疾患で見られる腎病変をテーマとした。次第に腎障害のある膠原病患者が集まり、アミロイドーシスを合併したRA患者が私の外来に溜まってきた。アミロイドーシスの中でも慢性炎症性疾患に続発するAA-アミロイドーシスと

いうタイプである。当時の抗リウマチ薬ではRAのコントロールは不十分で、アミロイドーシスと診断されたら1-2年の命というのが当時の常識であった。東京女子医科大学のリウマチセンターは患者数がむやみに多く（医者の数も相当多い）、いきおい普通ならまれなアミロイドーシスの患者がある程度の数になった。勉強する中でアミロイドの前駆タンパクである血清アミロイドA (SAA) には、遺伝子多型がありアロタイプが数種類あることを知った。患者を多く抱える強みで、遺伝子多型やプロモーター領域を解析し、また臨床データとの関連などを検討してAAアミロイドーシスでいくつかの報告ができた。日本人にAAアミロイドーシスが多い理由をある程度解明できたと思う。

アミロイドにはいくつもの種類があるが、どれもまれな疾患であるため、どの分野の学会（血液、リウマチ、神経、腎臓、病理など）でもメジャーではなく研究者は少ない。アミロイド自体を扱う学会はなく、アミロイドーシス研究の結果は日本やアメリカのリウマチ学会で発表していた。ある年に数年に一度開催される国際アミロイドーシスシンポジウムに参加した。初めての会議で、しかもフランスの地方都市での開催であった。駅員もホテルマンも英語を話さない中をバスやTGVを乗り継いでやっとの思いでツールという街に到着した。昼は発表をひたすら聞き、夜は駅構内の売店でフランスパンとワインを購入して部屋で寂しく食事をする始末であった。3日目に日本人の参加者と知り合い、寂しい食事から解放され、分野の大家にも紹介された。世界でも研究者はそれほど多くないが、国際アミロイドーシスシンポジウムにはさまざま

なアミロイドの専門家が集結していた。その場にてかけたことで、アミロイドーシス研究の横のつながりも広がった。国内では厚生労働省の研究班で各分野のアミロイド専門家が顔を揃えるが、その中で医師主導のRA続発性アミロイドーシスに対するトシリズマブの比較試験に参加し、まもなく本疾患に対する有効な治療法が示される。

一方、この10数年間に関節リウマチの治療は大転換を遂げた。治療薬も診断基準も評価法も、治療戦略そのものも変化したのである。パラダイムシフトの引き金は生物学的製剤の登場である。川上前センター長がその発見に寄与されたCachectin (TNF α)に対する抗体療法やそれに続く抗IL-6療法、T細胞選択的共刺激調節薬のおかげで、RAはほとんど治る病気になった。従来はCRPなど炎症値のみを指標とする医師が多かったが、疾患活動性の評価法も大きく変わった。DAS28やCDAIといった患者の関節所見(腫脹関節数、圧痛関節数)、患者自身による全身状態の評価VASが重視され、そこにCRPを加えた複合的評価法である。この結果、疾患活動性は数値化され、高疾患活動性、低疾患活動性などは基準値で定義される。さらに治療目標である寛解も数字で設定され、糖尿病などのように目標値の達成に向けて治療法を変更するTreat to Targetが治療戦略の基本となりつつある。このような治療法の進歩で、専門施設ではRA患者の寛解導入率は30%、低疾患活動性を含めると半数以上で達成されている。

AA-アミロイドーシスの前駆タンパクのSAAは急性炎症タンパクである。高度の炎症が長く続くことで

アミロイドーシスの発症に至ったわけであるが、昨今ではRAの関節炎はすぐに抑えられてしまう、寛解に至らないまでも高度の炎症が長く続く症例はほとんど無くなった。この結果、結核に続発するAA-アミロイドーシスが抗結核薬の出現で消滅したように、遠からずRAによるAA-アミロイドーシスは絶滅危惧種となる。いつまでもアミロイドーシスがテーマではやって行けない。

さて、自治医科大学に移動してもう4年になるというのに、まだ確固たる研究方向が定まらない。リウマチ科としてはスタッフも患者数もまだ発展途上で、RAやSLEで大きなテーマに取り組むには出遅れの感が強い。しかし、なぜかいくつかの疾患では大きな施設と変わらないくらい患者が多い。またリウマチ科の各人が興味をもつ疾患もそれぞれ良いポイントを突いているのも頼もしい。前の施設ではみられなかった様な生の(?)疾患をみるチャンスも多い。解らない病態を調べていると、新たな疑問、仮説が浮かび、新たなテーマの候補になる。楽しく臨床をしながら、研究方向を固めつつあるのが現状である。さて、ここで若い諸君へのメッセージである。

教訓

臨床の中に研究テーマがある(まれな疾患は大事にしよう)

学会に行ったら、どんどん知り合いを作る(私はこれが上手でなかった)

治療の進歩で研究テーマが消えることがある(その場合、しがみつかず次のテーマを探す)

研究の成果

総合医学 1

■ 消化器科

- ① 学会主催 (2011年12月～2012年2月)
第317回日本消化器病学会関東支部例会主催
会長 吉田行雄
会期 2011年12月3日(土)
特別講演:「消化器がんの発生要因と進展メカニズム」
演者: 国立がん研究センター研究所 所長 中

釜齊

司会: 自治医科大学附属さいたま医療センター
消化器科 吉田行雄

ランチョンセミナー:「潰瘍性大腸炎における
Infliximab治療の効果
-導入早期の内視鏡所見の
変化」

演者: 東京慈恵会医科大学 消化器肝臓内科
猿田 雅之

司会: 防衛医科大学校 内科学 三浦総一郎
一般演題 86題

参加人数 326名

② 学会、講演会、研究会への出席、発表の日程、概要 (2011年12月～2012年2月)

- 1) 永本将一, 佐々木純一, 小林恵子, 河村裕, 小西文雄, 福西昌徳, 池田正俊, 宮谷博幸, 吉田行雄, 野首光弘: 小腸粘膜下病変からの出血でショックを来たし緊急手術を行った1例. 第317回日本消化器病学会関東支部例会. 2011. 12. 3, 東京
- 2) 小林瑠美子, 浅野岳晴, 大竹はるか, 吉川修平, 上原健志, 新藤雄司, 池谷敬, 池田正俊, 牛丸信也, 東海浩一, 松本吏弘, 高松徹, 福西昌徳, 岩城孝明, 鷺原規喜, 浅部伸一, 宮谷博幸, 吉田行雄: 津波被災者でSegmental Arterial Mediolyticを発症した若年男性. 第317回日本消化器病学会関東支部例会. 2011. 12. 3, 東京
- 3) 鷺原規喜, 岩城孝明, 大竹はるか, 上原健志, 池谷敬, 新藤雄司, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 松本吏弘, 高松徹, 福西昌徳, 浅野岳晴, 浅部伸一, 宮谷博幸, 吉田行雄: 当センターにおけるクローン病治療薬アダリムマブ使用経験. 第317回日本消化器病学会関東支部例会. 2011. 12. 3, 東京
- 4) 山中健一, 吉田徹, 中野巳三喜, 佐々木健治, 石黒保直, 小原眞, 遠藤秀彦, 宮谷博幸, 吉田行雄, 佐藤孝: 経肛門の直視下生検で診断し術前化学療法により完全切除し得た直腸GISTの1例. 第317回日本消化器病学会関東支部例会. 2011. 12. 3, 東京
- 5) 東海浩一, 宮谷博幸, 大竹はるか, 新藤雄司, 上原健志, 池谷敬, 池田正俊, 牛丸信也, 浅野岳晴, 松本吏弘, 高松徹, 岩城孝明, 福西昌徳, 鷺原規喜, 浅部伸一, 吉田行雄, 山田茂樹: 骨髄線維症に起因する門脈圧亢進症により食道静脈瘤破裂を繰り返した一例. 第317回日本消化器病学会関東支部例会. 2011. 12. 3, 東京
- 6) 宇賀神卓広, 宮谷博幸, 牛丸信也, 吉田行雄: C型慢性肝炎に合併した多発性肝腫瘍の1例. 317回日本消化器病学会関東支部例会. 2011. 12. 3, 東京
- 7) 井上博睦, 宮谷博幸, 澤田幸久, 鷺原規喜, 吉田行雄: 下部消化管出血に対して緊急動脈塞栓術を施行して止血しえたが、術後に虚血による限局性腹膜炎を呈した1例. 第585回日本内科学会関東地方会例会. 2012. 2. 11, 東京
- 8) 高松徹, 池谷敬, 東海浩一, 牛丸信也, 松本吏弘, 岩城孝明, 鷺原規喜, 宮谷博幸, 吉田行雄, 野首光弘: 長径65mm大の0-I型早期胃癌 (M癌) の

1例. 第8回日本消化管学会学術集会プログラム・抄録集p109, 319. 第8回日本消化管学会学術集会, 2012. 2. 10～11, 仙台市

③ 原著その他論文 (2011年12月～2012年2月)

- 1) 松本吏弘, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 浅野岳晴, 高松徹, 岩城孝明, 福西昌徳, 鷺原規喜, 宮谷博幸, 吉田行雄, 山田茂樹: 短期間で形態変化がみられた胃hamartomatous inverted polypの1例. Progress of Digestive Endosc 79: 68-69, 2011
- 2) 大竹はるか, 岩城孝明, 池谷敬, 東海浩一, 池田正俊, 牛丸信也, 浅野岳晴, 松本吏弘, 高松徹, 福西昌徳, 鷺原規喜, 浅部伸一, 宮谷博幸, 吉田行雄, 佐々木純一, 土橋洋: 診断が困難であった4型大腸癌の1例. Progress of Digestive Endosc 79: 100-101, 2011
- 3) Iwaki T, Miyatani H, Yoshida Y, Matsuura K, Suminaga Y: Gastric variceal bleeding caused by an intrahepatic arterioportal fistula that formed after liver biopsy: a case report and review of the literature. Clin J Gastroenterol. 2012: Online First
- 4) Matsumoto S, Miyatani H, Yoshida Y, Nokubi M, noue H, Miyatani H, Nakashima Y, Sagihara N and Yoshida Y: Duodenal carcinoid tumors: 5 cases treated by endoscopic submucosal dissection. Gastrointest Endosc. 2011; 74: 1152-6.
- 5) 浅野岳晴, 中村郁夫, 岡島真里, 山中健一, 浅部伸一, 宮谷博幸, 松浦克彦, 吉田行雄, 井廻道夫: 肝細胞癌術後10年目に、手術断端より仮性動脈瘤を形成した1例. 肝臓2012; 53: 55-63

■ 呼吸器科

平成24年1月～24年6月

学会・地方会・研究会発表

- 1) K. Komiyama, K. Kobayashi, S. Minezaki, Y. Uchida, T. Kasai, K. Mori, E. Hoshi, S. Koyama, K. Eguchi, M. Nakayama, K. Kikuchi, Kanto Respiratory Disease Study Group. Phase I/II trial of a low-emetic combination of S-1 plus docetaxel (DTX) for advanced non-small cell lung cancer (NSCLC). 2011 American Society of Clinical Oncology. J Clin Oncol 29: 2011 (suppl; abst e18041)
- 2) 福井太郎, 手塚憲志, 金井義彦, 市田晃佑, 眞木

- 充、柴野智毅、峯岸健太郎、渡辺恭孝、三輪千尋、小山信一郎、土橋洋、遠藤俊輔。左肺全摘術を回避し、左下葉+舌区管状切除術を施行した左下葉扁平上皮癌の1例。第138回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 2011/09/17、東京
- 3) 渡辺恭孝、工藤史明、白石守、岩井悠希、野村基子、三輪千尋、小山信一郎、中野智之、手塚憲志、遠藤俊輔、野首光弘、土橋洋。再発胸膜中皮腫において、ALM+CDDPが著効した1例。TOTOF 2011。宇都宮 2011/09/29
- 4) 野村基子、渡辺恭孝、工藤史明、白石守、中野智之、手塚憲志、野首光弘、三輪千尋、遠藤俊輔、河端美則、小山信一郎。上縦隔主体のWegener肉芽腫が疑われた1例。第198回日本呼吸器学会関東地方会。2012/02/18 東京
- 5) 山田直也、中野智之、手塚憲志、小山信一郎、野首光弘、遠藤俊輔。気管支腔内進展を呈した肺腺癌の一切除例。第163回日本肺癌学会関東支部会 2012/03/10、東京
- 2) 山田穂高、佐々木正美、崎山快夫、大塚美恵子、浅野智子、青木厚、生駒亜希、豊島秀男、加計正文、川上正舒、石川三衛：少量ステロイドパルスが有効であった有痛性糖尿病性筋萎縮症の1例 第49回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2012年1月21日 東京都
- 3) 鈴木潤、青木厚、山田穂高、生駒亜希、佐々木正美、豊島秀男、加計正文、川上正舒、石川三衛：統合失調症患者にみられたペットボトル症候群の1例 第49回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2012年1月21日 東京都
- 4) 佐々木正美、山田穂高、浅野智子、青木厚、生駒亜希、豊島秀男、加計正文、川上正舒、石川三衛：心タンポナーデにより発見された高齢者甲状腺機能低下症の1例 第21回臨床内分泌代謝Update 2012年1月27-28日 浜松市
- 5) 山田穂高、浅野智子、佐々木正美、青木厚、生駒亜希、豊島秀男、加計正文、川上正舒、石川三衛：PET-CTで偶然発見されたプロラクチノーマの1例 第21回臨床内分泌代謝Update 2012年1月27-28日 浜松市

研究会、講演会等

- 1) 小山信一郎：第16回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会「肺機能とその検査」 東京 2011/09/02 講師
- 2) 小山信一郎：平成23年度肺がん検診症例検討会「E判定で異常なかった症例」 2011/11/09 さいたま 講師
- 3) 小山信一郎：第一回呼吸療法専門臨床工学士資格取得指定講演会「呼吸機能検査」 2011/11/26 東京 講師
- 4) 小山信一郎：第40回埼玉薬事研究会 COPDの治療～現在から未来へ 2012/01/17 さいたま 演者
- 5) 小山信一郎：第11回人工呼吸器安全対策セミナー「呼吸生理学と呼吸不全の病態生理」 2012/01/22 さいたま 演者
- 6) 浅野智子、山田穂高、青木厚、齊藤智之、生駒亜希、村田美保、佐々木正美、豊島秀男、石川三衛：服薬コンプライアンス不良から甲状腺クリーゼに至ったバセドウ病の1例 第12回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2012年3月23-24日 さいたま市
- 7) 石川三衛：教育講演「低ナトリウム血症の病態と治療」第12回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2012年3月23-24日 さいたま市

■ 血液科

2011年4月から2012年3月の間に発表した研究成果をご紹介します。ほとんどが臨床研究ですが、昨年へ引き続き基礎的研究に基づく論文も発表することが出来ました。以下のリストに列挙した23編の英文論文はいずれも血液科のメンバーがかかわった論文ですが、その中で当科が研究の中心となっているのは10編です。これらの論文からいくつかを取り上げて紹介します。

英文論文17番の研究は、造血幹細胞移植後の免疫状態を評価することを目的として、リンパ球数の変動をプロットした曲線を描き、移植後の標準的なリンパ球数の水平線と囲まれた面積を計算することによって、リンパ球低下の期間と程度の両者を定量する指標(L-index)を開発し、その値とサイトメガロウイルス(CMV)感染との相関を調査したものです。移植後

■ 内分泌代謝科

平成24年1-3月の内分泌代謝科の学会活動について報告します。

- 1) 青木厚、山田穂高、浅野智子、生駒亜希、佐々木正美、豊島秀男、加計正文、石川三衛、川上正舒：高血糖時の心電図にて広範な陰性T波を認めたバセドウ病と1型糖尿病の合併例 第49回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2012年1月21日 東京都

30日間のL-index (L-index30) はHLA不適合移植、女性患者、非リンパ性疾患で高くなることがわかりました。また、CMV再活性化症例においてL-index30が有意に高いということが判明し、ROC曲線を用いて閾値を22318に定めたところ、L-index30が22318以上であることはCMV再活性化に対する独立した危険因子であることが多変量解析で示されました。本研究は第33回日本造血細胞移植学会総会学術奨励賞を受賞しました。

英文論文12番の研究は日本造血細胞移植学会(JSHCT)のデータベースを利用した解析です。同種造血幹細胞移植に最も適したドナーはHLA適合血縁者ですが、日本ではそのようなドナーが得られる確率は30%程度にすぎません。そこで、次にHLAが適合した非血縁者(骨髄バンクドナー)からの移植とHLAが一抗原だけ不適合の血縁者からの移植が候補となります。以前にJSHCTデータベースの解析でHLA一抗原不適合血縁者間移植とHLA適合非血縁者間移植の移植成績は病初期白血病においても進行期白血病においてもほぼ同等であることを報告しました(Kanda Y. et al, *Blood* 2003)。しかし、非血縁者間移植の場合、HLAが血清型で適合しているも遺伝子学的検査で不適合(アレル不適合)が存在することが問題になります。そこで、今回は新たに2001年から2008年に行われた移植データを用いて再検討を行いました。非血縁者間骨髄移植をA、B、C、DRB1の全てのHLA型が遺伝子レベルで適合している移植に限定して比較したところ、HLA適合非血縁者間移植はHLA一抗原不適合血縁者間移植よりも有意に優れているという結果になりました。HLA一抗原不適合血縁者間移植の中では特にB座の不適合がA、DRの不適合よりも生存率が低く、B座と近接しているC座の不適合の影響が原因の一つとして考えられました。この研究成果は本邦の造血幹細胞移植のドナー選択に大きな影響を与えるものであり、血液学領域のトップジャーナルである*Blood*誌に掲載が決定しています(第34回日本造血細胞移植学会総会においてプレナリーセッションの筆頭演題として選ばれました)。

これらの統計解析を行うためには優れた統計解析ソフトが必要です。市販の統計ソフトにはSAS、SPSS、STATA、JMPなど、信頼性、実績ともに申し分ないソフトウェアが多数ありますが、個人で購入するには高価です。一方、Rは無料で使用することができる統計ソフトで、様々なパッケージを導入することによって多彩な統計解析を行うことができます。しかし、S言語に基づくスクリプトを入力して解析する必要があるため、扱いにくい部分がありました。Rの追加機能パッケージであるRコマンドーをRに組み込みこめば、

SPSSやかつてのStatViewのように、マウス操作だけで解析を行うことができるようになります。しかし、Rコマンドーに標準で組み込まれている統計解析の種類は限定されていました。特に、医療統計分野で多用する生存解析については生存解析用パッケージを組み込んでも限定されていました。そこで、Rコマンドーのカスタマイズ機能を利用して、医療統計でしばしば用いる以下のような統計解析機能を組み込んだ統計ソフトEZRを作成しました。競合イベントや時間依存性変数を扱う生存解析、ROC解析、メタアナリシス、必要サンプルサイズや統計学的検出力の計算なども簡単に実施できます。関心のある方は以下のページからダウンロードしてください。 <http://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/> このソフトのマニュアルに統計の入門的な解説に加えた書籍「EZRでやさしく学ぶ統計学」を中外医学社から刊行しています。

以上は全て臨床研究関連ですが、研究室における移植免疫、腫瘍免疫の基礎研究も軌道に乗り、昨年に続いて研究論文を発表することができました(英文論文の6番)。単クローン性抗免疫グロブリン血症を伴う骨髄異形成症候群(MDS)に対して臍帯血移植を行ったところ、残念ながら移植後しばらくしてMDSが再発してしまった患者さんですが、興味深いことに再発したMDSの腫瘍細胞は臍帯血(ドナー)由来であり、また、MDSの再発と同時に再び単クローン性抗免疫グロブリン血症が見られました。そこで問題となったのはこの移植後の異常免疫グロブリンが患者細胞に由来するのかドナー細胞に由来するのかということです。移植後のMDSの腫瘍細胞自体は移植前のものとは異なるにもかかわらず、再度単クローン性の免疫グロブリン異常を伴ったというのは不思議な現象です。そこで、免疫グロブリンのアロタイプを利用して抗体の由来の同定を試みました。患者およびドナー(臍帯血)のアロタイプについて患者の口腔粘膜から採取した検体とドナー血液細胞を用いて免疫グロブリン重鎖固定領域の塩基配列を決定したところ、患者のアロタイプがIgG1m (f,z)、ドナーのアロタイプがIgG1m (z)であることが判明したため、抗体の由来をELISAによって同定することが可能になりました。その結果、移植後の単クローン性抗免疫グロブリン血症はドナー細胞に由来することがわかりました。MDS患者に単クローン性抗免疫グロブリン血症が合併する確率は約10%程度ですので移植前後に偶然に二度合併したというよりは何らかの患者背景が関連している可能性が高く、患者に残存する抗原提示細胞が単クローン性抗免疫グロブリン血症を誘発している可能性を考えています。

そのほか、平成23年度はあらたに二人の大学院生

を迎え、造血幹細胞移植後の免疫機能再構築の解析を行っていただいています。昨年ご紹介した単細胞レベルでのT細胞受容体レパトアの解析を行う手法を利用して、造血幹細胞移植後患者のサイトメガロウイルスやEBウイルスなどに対する特異的細胞傷害性T細胞の解析を行っています。研究の機器としてはBD FACSAriaII、ABI 7900HT FAST Real Time PCR system、ABI PRISM 3100 genetic analyzer、テラスキャンシステム、ELISPOTリーダーなどがそろっており、さらに平成23年度の競輪の補助金を受けて、蛍光マイクロビーズアレイシステムを整備していただき、上記研究の原動力となっております。

また、下記の論文のいくつかは他科との共同発表です。今後も様々な診療科と共同研究を進めていきたいと思っておりますので、引き続きご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

英文論文

- 1) Yoshinobu Kanda. Guest Editorial : Role of monoclonal antibodies for the prevention and treatment of graft-versus-host disease. *International Journal of Hematology* 93 : 569-570, 2011 (May)
- 2) Hirohisa Nakamae, Hirohiko Shibayama, Mineo Kurokawa, Tetsuya Fukuda, Chiaki Nakaseko, Yoshinobu Kanda, Tadashi Nagai, Kazunori Ohnishi, Yasuhiro Maeda, Akira Matsuda, Taro Amagasaki, Masamitsu Yanada, for the Japanese AMN107/2303 Study Group Nilotinib as frontline therapy for patients with newly diagnosed Ph+ chronic myeloid leukemia in chronic phase : results from the Japanese subgroup of ENESTnd. *International Journal of Hematology* 93 : 624-632, 2011 (May)
- 3) Fusako Waki, Kazuhiro Masuoka, Takahiro Fukuda, Yoshinobu Kanda, Mika Nakamae, Kimikazu Yakushijin, Katsuhiko Togami, Kaichi Nishiwaki, Yasunori Ueda, Fumio Kawano, Masaharu Kasai, Koji Nagafuji, Maki Hagihara, Kazuo Hatanaka, Masafumi Taniwaki, Yoshinobu Maeda, Naoki Shirafuji, Takehiko Mori, Atae Utsunomiya, Tetsuya Eto, Hitoshi Nakagawa, Makoto Murata, Toshiki Uchida, Hiroatsu Iida, Kazuaki Yakushiji, Takuya Yamashita, Atsushi Wake, Satoshi Takahashi, Yoichi Takaue, Shuichi Taniguchi. Feasibility of reduced-intensity cord blood transplantation as salvage therapy for graft failure : results of a nationwide survey of 80 adult patients. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 17 : 841-851, 2011 (June)
- 4) Yoshinobu Kanda, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Kumi Oshima. Risks and benefits of ovarian shielding in female patients undergoing total body irradiation : A decision analysis. *Bone Marrow Transplantation* 48 : 1145-1147, 2011 (August)
- 5) Hidenori Wada, Kiriko Terasako, Yurika Kamiya, Miki Sato, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Junji Nishida, Masato Moriguchi, Chihiro Terai, Yoshinobu Kanda. Immune recovery after autologous peripheral blood stem cell transplantation without in vitro graft manipulation for refractory systemic lupus erythematosus. *Bone Marrow Transplantation* 46 : 1450-1454, 2011 (November)
- 6) Rie Yamazaki, Hideki Nakasone, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Shun-ichi Kimura, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Yukie Tanaka, Aki Tanihara, Kumi Oshima, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Recurrence of monoclonal gammopathy associated with donor-derived myelodysplastic syndrome after cord blood stem cell transplantation. *Experimental Hematology* 39 : 1119-1123, 2011 (December)
- 7) Akira Yokota, Shinichi Ozawa, Masanori Tsuji, Hideki Akiyama, Kumi Oshima, Yoshinobu Kanda, Satoshi Takahashi, Takehiko Mori, Chiaki Nakaseko, Masahiro Onoda, Kenji Kishi, Noriko Toki, Nobuyuki Aotsuka, Heiwa Kanamori, Atsuo Maruta, Hisashi Sakamaki, and Shinichiro Okamoto for the Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Secondary solid tumors and posttransplant lymphoproliferative disorders after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in Japan. *Bone Marrow Transplantation* 47 : 95-100, 2012 (January)
- 8) Masahiro Ashizawa, Shinichi Kako, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Miki Sato, Kiriko Terasako, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Shinya Okuda, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. FAME, a novel conditioning regimen

- for allogeneic stem cell transplantation for lymphoma, does not earn fame. *Hematological Oncology* (in press)
- 9) Ken Ishiyama, Akiyoshi Takami, Yoshinobu Kanda, Shinji Nakao, Michihiro Hidaka, Tetsuo Maeda, Tomoki Naoe, Shuichi Taniguchi, Keisei Kawa, Tokiko Nagamura, Yoshiko Atsuta and Hisashi Sakamaki. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for acute myeloid leukemia with t (6 ; 9) (p23 ; q34) dramatically improves the patient prognosis : A matched-pair analysis. *Leukemia* (in press)
- 10) Shinichi Kako, Hideki Nakasone, Hiroshi Endo, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Misato Kikuchi, Shun-Ichi Kimura, Shinya Okuda, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Aki Tanihara, Junji Nishida, Kensuke Usuki, Yoshinobu Kanda. Clinical course of patients with aplastic anemia or myelodysplastic syndrome associated with persistent neutropenia. *Hematological Oncology* (in press)
- 11) Noriaki Kawano, Shinya Okuda, Shuro Yoshida, Kiyoshi Yamashita, Akira Ueda, Yoshinobu Kanda. Successful treatment for lymphoid blastic crisis of chronic myelogenous leukemia with the additional bcr/abl transcript by imatinib combined chemotherapy and high-dose chemotherapy with allogeneic bone marrow stem cell transplantation. *International Journal of Hematology* (in press)
- 12) Junya Kanda, Hiroh Saji, Takahiro Fukuda, Takeshi Kobayashi, Koichi Miyamura, Tetsuya Eto, Mineo Kurokawa, Heiwa Kanamori, Takehiko Mori, Michihiro Hidaka, Koji Iwato, Takashi Yoshida, Hisashi Sakamaki, Junji Tanaka, Keisei Kawa, Yasuo Morishima, Ritsuro Suzuki, Yoshiko Atsuta, Yoshinobu Kanda. Related transplantation with HLA 1-antigen mismatch in the graft-versus-host direction and HLA 8/8-allele-matched unrelated transplantation : A nationwide retrospective study. *Blood* (in press)
- 13) Susumu Goyama, Kengo Takeuchi, Yoshinobu Kanda, Yasuhito Nannya, Shigeru Chiba, Masashi Fukayama, Mineo Kurokawa. Post-transplant endothelial disorder after hematopoietic stem cell transplantation : a blinded autopsy study. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 14) Kiriko Terasako, Kumi Oshima, Hidenori Wada, Yuko Ishihara, Koji Kawamura, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Tomohito Machishima, Hideki Nakasone, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kengo Takeuchi, Junji Nishida, Shigeki Yamada, Osamu Tanaka, Yoshinobu Kanda. Fulminant hepatic failure caused by adenovirus infection mimicking peliosis hepatitis on abdominal computed tomography images after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Internal Medicine* (in press)
- 15) Ken Ishiyama, Akiyoshi Takami, Yoshinobu Kanda, Shinji Nakao, Michihiro Hidaka, Tetsuo Maeda, Tomoki Naoe, Shuichi Taniguchi, Keisei Kawa, Tokiko Nagamura, Ken Tabuchi, Yoshiko Atsuta and Hisashi Sakamaki. Prognostic factors for acute myeloid leukemia patients with t (6 ; 9) (p23 ; q34) who underwent an allogeneic hematopoietic stem cell transplant. *Leukemia* (in press)
- 16) Jun Suzuki, Masahiro Ashizawa, Shinya Okuda, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Kiriko Terasako, Miki Sato, Shun-ichi Kimura, Misato Kikuchi, Hideki Nakasone, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. Varicella-zoster virus meningoencephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transplantation Infectious Disease* (in press)
- 17) Shun-ichi Kimura, Hidenori Wada, Kana Sakamoto, Masahiro Ashizawa, Miki Sato, Kiriko Terasako, Hideki Nakasone, Misato Kikuchi, Shinya Okuda, Shinichi Kako, Rie Yamazaki, Kumi Oshima, Yukie Tanaka, Aki Tanihara, Junji Nishida, Yoshinobu Kanda. L-index as a novel index to evaluate both the intensity and duration of lymphopenia after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transplantation Infectious Disease* (in press)
- 18) Junya Kanda, Masakatsu Hishizawa, Atae Utsunomiya, Shuichi Taniguchi, Tetsuya Eto, Yukiyoshi Moriuchi, Ryuji Tanosaki, Fumio Kawano, Yasushi Miyazaki, Masato Masuda, Koji Nagafuji, Masamichi Hara, Minoko Takanashi, Shunro Kai, Yoshiko Atsuta, Ritsuro Suzuki, Takakazu Kawase, Keitaro Matsuo, Tokiko Nagamura-Inoue, Shunichi Kato, Hisashi

- Sakamaki, Yasuo Morishima, Jun Okamura, Tatsuo Ichinohe, Takashi Uchiyama. Impact of graft-versus-host disease on outcomes after allogeneic hematopoietic cell transplantation for adult T-cell leukemia : a retrospective cohort study. *Blood* (in press)
- 19) Junya Kanda, Mitchell E. Horwitz, Gwynn D. Long, Cristina Gasparetto, Keith M. Sullivan, John P. Chute, Ashley Morris, Therese Hennig, Zhiguo Li, Nelson J. Chao, David A. Rizzieri. Outcomes of a 1-day nonmyeloablative salvage regimen for patients with primary graft failure after allogeneic hematopoietic cell transplantation. *Bone Marrow Transplantation* (in press)
- 20) Junya Kanda, Richard D. Lopez, David A. Rizzieri. Alemtuzumab for the prevention and treatment of graft-versus-host disease. *International Journal of Hematology* 93 : 586-93, 2011 (May).
- 21) Junya Kanda, David A. Rizzieri, Cristina Gasparetto, Gwynn D. Long, John P. Chute, Keith M. Sullivan, Ashley Morris, Clayton A. Smith, Donna E. Hogge, Janet Nitta, Kevin Song, Donna Niedzwiecki, Nelson J. Chao, Mitchell E. Horwitz. Adult dual umbilical cord blood transplantation using myeloablative total body irradiation (1350 cGy) and fludarabine conditioning. *Biology of Blood and Marrow Transplantation* 17 : 867-74, 2011 (June)
- 22) Arita K, Kondo T, Sugita J, Shigematsu A, Shiratori S, Wakasa K, Yasumoto A, Iyata M, Shono Y, Kikuchi M, Goto H, Takeda Y, Takahata M, Kato N, Nishio M, Ota S, Tanaka J, Imamura M. Sequential chemotherapy and myeloablative allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for refractory acute lymphoblastic leukemia. *International Journal of Hematology* 94 : 291-295, 2012 (September)
- 23) Kosei Matsue, Noboru Asada, Jun Odawara, Takatoshi Aoki, Shun-ichi Kimura, Kan-ichi Iwama, Hideaki Fujiwara, Masayuki Yamakura, Masami Takeuchi. Random skin biopsy and bone marrow biopsy for diagnosis of intravascular large B cell lymphoma. *Annals of Hematology* 90 : 417-421, 2011 (April)
- 和文著書
- 1) 神田善伸 EZRでやさしく学ぶ統計学 中外医学社 2012年3月
- 和文総説
- 1) 神田善伸 ホジキンリンパ腫 押味和夫編 みんなに役立つ悪性リンパ腫の基礎と臨床 改訂版 大阪：医薬ジャーナル社 2011年 P356-364
- 2) 神田善伸 造血幹細胞移植 松田晃編 骨髄異形成症候群 (MDS) のマネジメント 大阪：医薬ジャーナル社 2011年 P100-107
- 3) 神田善伸 AMLに対する造血幹細胞移植 木崎昌弘編 白血病・リンパ腫・骨髄腫 -今日の診断と治療- 東京：中外医学社 2011年 P121-132
- 4) 神田善伸 同種移植：HLA適合とドナーソース 松村到編 白血病診療ポケットブック 東京：中外医学社 2011年 P266-274
- 5) 神田善伸 同種移植：移植前処置 松村到編 白血病診療ポケットブック 東京：中外医学社 2011年 P275-285
- 6) 神田善伸 同種移植：GVHDとGVL 松村到編 白血病診療ポケットブック 東京：中外医学社 2011年 P286-299
- 7) 大島久美、神田善伸 単純ヘルペス、水痘帯状疱疹ウイルス 豊嶋崇徳編 症例とエビデンスに学ぶ 造血細胞移植と感染症 大阪：医薬ジャーナル社 2011年 P26-32
- 8) 賀古真一、神田善伸 G-CSFのエビデンス 豊嶋崇徳編 症例とエビデンスに学ぶ 造血細胞移植と感染症 大阪：医薬ジャーナル社 2011年 P208-216
- 9) 神田善伸 リンパ系腫瘍：診断と治療の進歩 リンパ系腫瘍治療における造血幹細胞移植の位置づけ 日本内科学会雑誌 100 : 1875-1884, 2011
- 10) 神田善伸 特集：最新の抗悪性腫瘍薬併用療法～分子標的治療薬の役割～ 分子標的治療薬による造血幹細胞移植の変化 医薬ジャーナル 47 : 1399-144, 2011
- 11) 木村俊一、神田善伸 血液診療における水痘・帯状疱疹ウイルス感染 血液内科 62 : 581-587, 2011
- 12) 神田善伸 HLA不適合移植の現状と展望 血液内科 63 : 285-291, 2011
- 13) 神田善伸 教育講演 急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植 臨床血液 52 : 1563-1574, 2011
- 14) 神田善伸 真菌感染症の予防と治療の留意点 化学療法領域 27 : 2280-2289, 2011

- 15) 仲宗根秀樹、神田善伸 血清高分子量アディポネクチンと慢性移植片対宿主病の重症度の相関 **血液内科** 科学評論社 2011年 63巻6号 P720-726
- 16) 佐藤美樹 この症例から何を学ぶか 骨髄異形成症候群 **Medical Practice** 28 : 2218-2224, 2011
- 17) 寺迫桐子 自己免疫性溶血性貧血の治療 **Medical Practice** 文光堂 28 : 2189-2193, 2011

編集、監修など

- 1) Yoshinobu Kanda. Progress in Hematology : Role of monoclonal antibodies for the prevention and treatment of graft-versus-host disease. **International Journal of Hematology**
- 2) 神田善伸 一般内科医がみる血液疾患 ～血液専門医の効率的な連携のために～ **Medicina**
- 3) 神田善伸 貧血診療のアプローチ ～一般医の門扉から専門医の玄関まで～ **Medical Practice** 文光堂

学会招待講演など

- 1) 神田善伸 日本感染症学会教育セミナー 「血液悪性腫瘍患者に対する真菌感染管理の実際 ～IDSA 新FNガイドラインのUpdateも含めて～」 **第85回日本感染症学会総会・学術講演会** 東京 2011年4月21日
- 2) 神田善伸 非血縁者間骨髄移植後のCMV感染対策としての血漿定量PCRと抗原血症検査の多施設共同無作為割付比較試験 **第18回ヘルペス感染症フォーラム 要望演題** 札幌 2011年8月
- 3) 神田善伸 新しいIDSAのFNガイドライン(2010)を読み解く。～日本でどのように活用すべきか? ～ **第73回日本血液学会総会** コーポレートセミナー 名古屋 2011年10月14日
- 4) 神田善伸 急性骨髄性白血病の移植適応 **第73回日本血液学会総会** 教育講演 名古屋 2011年10月16日
- 5) 神田善伸 造血細胞移植における不妊対策ワークショップ 同種造血幹細胞移植後の妊よう性維持のために **第34回日本造血細胞移植学会総会** ワークショップ 大阪 2012年2月24日
- 6) 神田善伸 同種造血幹細胞移植後のCMV感染症対策 **第34回日本造血細胞移植学会総会** ランチョンセミナー 大阪 2012年2月25日
- 7) 仲宗根秀樹 造血幹細胞移植後の晩期障害 Late adverse effects following hematopoietic stem cell transplantation 学会教育セミナー **第34回日本造血細胞移植学会総会** 看護部会教育セミナー

大阪 2011年2月25日

学会一般演題

- 1) 蘆澤正弘、木村俊一、峯岸健太郎、和田英則、坂本佳奈、佐藤美樹、寺迫桐子、菊地美里、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、大島久美、松浦克彦、大森司、窓岩清治、西田淳二、三室淳、田部井薫、坂田洋一、神田善伸 mixing testで凝固因子欠乏パターンを示した後天性第V因子インヒビター症例 **第166回日本血液学会例会** 東京 2011年7月2日
- 2) 仲宗根秀樹、山崎理絵、佐藤美樹、寺迫桐子、田中ゆきえ、坂本佳奈、蘆澤正弘、木村俊一、菊地美里、賀古真一、奥田慎也、谷原亜紀、大島久美、西田淳二、神田善伸 移植前の血漿中高分子量アディポネクチン濃度と移植片対宿主病発症の関連 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月14日
- 3) 蘆澤正弘、大島久美、木村俊一、和田英則、坂本佳奈、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 急性骨髄性白血病の初発症状と症状出現から診断までの期間が臨床経過に及ぼす影響の解析 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月14日
- 4) 佐藤美樹、仲宗根秀樹、山崎理絵、田中ゆきえ、坂本佳奈、和田英則、蘆澤正弘、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、賀古真一、奥田慎也、谷原亜紀、大島久美、西田淳二、神田善伸 移植後血漿中レチノール結合蛋白-4の動態と急性移植片対宿主病 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月14日
- 5) 賀古真一、金森平和、小林直樹、重松明男、南谷泰仁、中前美佳、重野一幸、鈴川和己、武内正博、都築基弘、白杵憲祐、畑中一生、小川一英、三谷絹子、名和由一郎、八田善弘、水野石一、神田善伸、フィラデルフィア染色体陰性成人急性リンパ性白血病の初回再発後の予後についての後方視的検討 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月15日
- 6) 菊地美里、仲宗根秀樹、三谷絹子、後藤守孝、小林彩香、栗田尚樹、斉藤健、佐藤謙、神田善伸 侵襲性真菌症の既往を有する好中球減少患者における真菌症二次予防の有用性の検討 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 愛知 2011年10月15日
- 7) 奥田慎也、大島久美、和田英則、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、木村俊一、菊地美里、

- 賀古真一、西田淳二、神田善伸 自家造血幹細胞移植患者に対する予防的イトリゾール内用液投与の血中濃度に影響を与える因子の解析 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月15日
- 8) 木村俊一、和田英則、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、菊地美里、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、大島久美、西田淳二、神田善伸 大量キロサイド療法による地固め療法を受ける急性骨髄性白血病患者におけるD-indexの検討 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月16日
- 9) 坂本佳奈、仲宗根秀樹、鶴見茂治、佐々木光、三谷絹子、木田理子、半下石明、臼杵憲祐、小林彩香、佐藤謙、山口麻里子、伊豆津宏二、大越靖、千葉滋、神田善伸 未治療特発性血小板減少性紫斑病患者に対する通常量プレドニゾロンと大量デキサメタゾンの後方視的比較 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月16日
- 10) 大島久美、佐藤美樹、松元加奈、和田英則、坂本佳奈、蘆澤正弘、寺迫桐子、木村俊一、仲宗根秀樹、菊地美里、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、森田邦彦、神田善伸 移植前処置に用いる静注用ブスルファン1日1回投与の薬物体内動態の検討 **第73回日本血液学会学術集会** 一般口演 名古屋 2011年10月16日
- 11) Shinichi Kako, Heiwa Kanamori, Naoki Kobayashi, Akio Shigematsu, Yasuhito Nannya, Mika Nakamae, Kazuyuki Shigeno, Kazumi Suzukawa, Masahiro Takeuchi, Motohiro Tsuzuki, Kensuke Usuki, Kazuo Hatanaka, Kazuei Ogawa, Kinuko Mitani, Yuichiro Nawa, Yoshihiro Hatta, Ishikazu Mizuno, Yoshinobu Kanda. Outcome After First Relapse In Adult Patients With Philadelphi Chromosome-negative Acute Lymphoblastic Leukemia **53rd American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition** Poster presentation San Diego, USA December 2011
- 12) Junya Kanda, David A. Rizzieri, Gwynn D. Long, Cristina Gasparetto, John P. Chute, Keith M. Sullivan, Ashley Morris, Jacalyn McPherson, J. Andrew Livingston, Gloria Broadwater, Donna Niedzwiecki, Nelson J. Chao, Mitchell E. Horwitz. The impact of lymphocyte subset recovery at 3 months on progression-free survival after myeloablative allogeneic stem cell transplantation. **53rd American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition** Poster presentation San Diego California December 2011
- 13) The impact of HCV sero-positivity of recipients of clinical outcomes following allogeneic HSCT in Japan. Hideki Nakasone, Kimikazu Yakushijin, Saiko Kurosawa, Hiroyasu Ogawa, Kazuki Ohashi, Tetsuya Eto, Hisashi Sakamaki, Yasuo Morishima, Tokiko Nagamura, Ritsuro Suzuki, Makoto Murata, Shuichi Taniguchi, Takahiro Fukuda. **2012 BMT Tandem Meetings** Poster Presentation San Diego, CA February 2012
- 14) Junya Kanda, Leylagul Kaynar, Yoshinobu Kanda, Vinod K. Prasad, Suhag H. Parikh, David A. Rizzieri, Gwynn D. Long, Keith M. Sullivan, Cristina Gasparetto, John P. Chute, Ashley Morris, Scott Winkel, Jacalyn McPherson, Joanne Kurtzberg, Nelson J. Chao, Mitchell E. Horwitz. Use of cyclosporine is associated with the increase in pre-engraftment syndrome after myeloablative dual cord blood transplantation. **2012 BMT Tandem Meetings** Poster presentation San Diego California February 2012
- 15) 仲宗根秀樹、薬師神公和、黒澤彩子、小川啓恭、大橋一輝、衛藤徹也、坂巻壽、森島泰雄、長村登紀子、鈴木律朗、村田誠、谷口修一、福田隆浩 同種造血幹細胞移植後合併症と長期予後に与えるHCV陽性の影響 The impact of HCV sero-positivity on clinical outcomes following allogeneic HSCT. **第34回日本造血細胞移植学会総会** 一般口演 大阪 2011年2月24日
- 16) 仲宗根秀樹、諫田淳也、吾郷浩厚、福田隆浩、中根孝彦、小林武、谷口修一、森島泰雄、長村登紀子、坂巻壽、熱田由子、村田誠 TRUMPデータに基づく同種造血幹細胞移植後の閉塞性細気管支炎の症例対照研究 A case-control study for bronchiolitis obliterans after allogeneic HSCT based on TRUMP data. **第34回日本造血細胞移植学会総会** 一般口演 大阪 2011年2月24日
- 17) 諫田淳也、佐治博夫、福田隆浩、小林武、宮村耕一、衛藤徹也、黒川峰夫、金森平和、森毅彦、日高道弘、岩戸康治、吉田喬、坂巻壽、田中淳司、河敬世、森島泰雄、鈴木律朗、熱田由子、神田善伸 GVH方向HLA1抗原不適合血縁者間移植とHLA8/8アレル適合非血縁者間移植の移植成績の比較 **第34回日本造血細胞移植学会総会** プレナリーセッション 大阪 2012年2月25日

- 18) 河村浩二、菊地美里、和田英則、石原優子、坂本佳奈、蘆澤正弘、佐藤美樹、寺迫桐子、町島智人、木村俊一、仲宗根秀樹、奥田慎也、賀古真一、山崎理絵、西田淳二、神田善伸 血液疾患患者及び健康者に対するG-CSF単独による末梢血幹細胞の採取効率に関する検討 第34回日本造血細胞移植学会総会 一般口演 大阪 2012年2月24日
- 19) 寺迫桐子、仲宗根秀樹、佐藤美樹、山崎理絵、田中ゆきえ、和田英則、石原優子、河村浩二、坂本佳奈、蘆澤正弘、町島智人、木村俊一、菊地美里、奥田慎也、賀古真一、西田淳二、神田善伸 移植前血漿中レプチン濃度が移植後イベントへ及ぼす影響の検討 第34回日本造血細胞移植学会総会 ポスター 大阪 2012年3月25日
- 20) 賀古真一、金森平和、小林直樹、重松明男、南谷泰仁、中前美佳、重野一幸、鈴木和己、武内正博、都築基弘、臼杵憲祐、畑中一生、小川一英、三谷絹子、名和由一郎、八田善弘、水野石一、神田善伸. フィラデルフィア染色体陰性成人急性リンパ性白血病の初回再発後の予後についての後方視的検討 第34回日本造血細胞移植学会総会 口演 大阪 2012年2月25日
- 21) 賀古真一、伊豆津宏二、加藤光次、金成元、森毅彦、福田隆浩、小林直樹、田地浩史、橋本尚子、坂巻壽、森島泰雄、長村登紀子、鈴木律朗、鈴木淳司 ホジキンリンパ腫に対する造血幹細胞移植の後方視的検討：日本造血細胞移植学会成人悪性リンパ腫ワーキンググループからの報告 第34回日本造血細胞移植学会総会 口演 大阪 2012年2月25日
- レインの評価. 第22回日本心エコー図学会、鹿児島、2011年4月22日
- 2) 磯貝美穂子、丸山麻美、野中航仁、市橋光：陽圧・陰圧式人工呼吸器の有効性と使用条件の検討. 第25回日本小児救急医学会、東京、2011年6月11日
- 3) 丸山麻美、佐藤有子、市橋光：新生児脳血流のautoregulation評価 大泉門圧迫による血流変化. 第30回日本脳神経超音波学会、長崎、2011年7月8日
- 4) 利根澤慧、鈴木亮太、新井知佳、井上建、福田聡子、川畑建、宮林寛、菅野啓一、清水正樹：経皮中心静脈カテーテル留置中に右心室内血栓により右室流出路狭窄を呈した超低出生体重児の1例. 第47回日本周産期・新生児医学会学術集会、札幌、2011年7月12日
- 5) 利根澤慧、柳将人、寺田有佑、辻脇篤志、鳥羽山寿子、萩原真一郎、鍵本聖一、田中理砂、大石勉：急激に発症した眼窩蜂窩織炎の1例. 第145回日本小児科学会埼玉地方会、さいたま、2011年9月3日
- 6) 菅原大輔、田村大輔、磯貝美穂子、丸山麻美、佐藤有子、市橋光：ノロウイルス感染によるウイルス血症の1例. 第43回日本小児感染症学会総会・学術集会、岡山、2011年10月30日
- 7) 今西利之、宮林寛、鈴木亮太、閑野将行、菅野雅美、川畑建、菅野啓一、清水正樹：3番染色体短腕の部分的欠失および長腕重複の1例. 第56回日本未熟児新生児学会、東京、2011年11月15日
- 8) 山下信一郎、磯貝美穂子、田村大輔、佐藤有子、市橋光：性器出血を主訴に来院した膣内異物の1例. 日本小児科学会埼玉地方会、さいたま、2011年12月11日
- 9) 大沼奈央、牧田英士、今西利之、黒田早恵、丸山麻美、田村大輔、佐藤有子、市橋光：川崎病を契機に発見された異常ヘモグロビン症(Hb E症)の1例. 第147回日本小児科学会埼玉地方会、さいたま、2012年2月18日

■ 小児科

(A) 原著論文

- 1) Maruyama A, Takahashi N, Gunji Y, Morimoto A, Yada Y, Koike Y, Momoi MY. Congenital Hemophagocytic Lymphohistiocytosis in a Preterm infant : Cytokine Profile and a Review of the Disease. J Pediatr Hematol Oncol. 33 : 209-212, 2011.
- 2) Sato Y, Maruyama A, Ichihashi K. Aging change of left ventricular function in children evaluated by acoustic quantification method. J Echocardiogr 9 : 97-102, 2011

(B) 学会発表

- 1) 丸山麻美、佐藤有子、川瀬泰浩、市橋光：2Dスベックルトラッキング法による新生児左室スト

(C) 著書・総説

- 1) 市橋光：循環器薬（強心薬、抗不整脈薬）. エキスパートが教える研修医のための薬の使いかた. 小児科診療 74, 784-788, 2011
- 2) 市橋光：小児の循環障害をみたら何を考えるか？小児の救急診療Q & A - PALSに基づいた考え方と実践-. 小児科学レクチャー 1, 483-489, 2011
- 3) 田村大輔、菅谷憲夫、三田村敬子、他：新型・季

節性インフルエンザ診療ガイド2010-2011. 日本医事新報社、2011

- 4) 田村大輔、進藤奈邦子：新型インフルエンザA (H1N1) 2009の治療(とくに小児について). インフルエンザ、12、265-272, 2011

(D) その他

研究会

- 1) 菅原大輔、田村大輔、磯貝美穂子、丸山麻美、佐藤有子、市橋光：ノロウイルス感染によるウイルス血症の1例. 第49回埼玉県小児感染免疫懇話会、さいたま、2011年7月30日
- 2) 山下信一郎、黒田早恵、田村大輔、佐藤有子、市橋光：当センターに入院した小児気管支喘息の検討. 埼玉小児アレルギーフォーラム、さいたま、2011年9月22日

講演

- 1) 市橋光：小児の超音波検査－臨床から研究まで－. 第277回所沢小児科医会学術講演会 特別講演、所沢、2011年5月13日
- 2) 田村大輔：小児インフルエンザにおける抗ウイルス薬の位置づけ. 第45回日本小児感染症学会 ランチョンセミナー、岡山、2011年10月29日
- 3) 田村大輔：小児インフルエンザ治療での抗ウイルス薬とワクチン. 第15回神奈川東部呼吸器研究会、横浜、2011年11月9日
- 4) 田村大輔：小児インフルエンザでの抗ウイルス薬の選択とワクチン効果. Rilenza発売10周年記念講演会、福岡、2011年11月10日

総合医学2

■ 呼吸器外科

(論文)

- 1) Tetsuka K, Endo S, Kanai Y, Otani S, Yamamoto S, Hasegawa T. Muscle plompage for extensive bronchial necrosis after right lower lobectomy. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 60 (1) : 60-62 2012
- 2) Kanai Y, Endo S, Tetsuka K, Nokubi M. Pleural solitary fibrous tumor with bullae : is it a microinvasive tumor?. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 60 (2) : 122-124 2012
- 3) Kanai Y, Endo S, Tetsuka K, Yamamoto S. Massive haemothorax after pulmonary endostapling preloaded with bioabsorbable tissue reinforcement material. Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery 14 : 345-346 2012
- 4) 手塚憲志、遠藤俊輔：肺癌の手術療法の進歩－肺癌の悪性度や全身状態に応じたオーダーメイド外科治療－. 成人病と生活習慣病 42 (1) : 63-67, 2012.
- 5) 中野智之、遠藤俊輔、手塚憲志、ほか：2 cm以下の小型肺癌症例におけるFDG-PET検査の有用性－縮小手術の可能性に関する検討－. 胸部外科 64 (1) : 21-24, 2012

(学会発表)

- 1) 峯岸健太郎ほか：長期経過観察中に感染を合併した胸腺嚢胞の一手術例 第158回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 3月3日(東京)
- 2) 山田直也ほか：気管支腔内進展を呈した肺腺癌の一切除例 第163回日本肺癌学会関東支部会 3月10日(東京)
- 3) 中野智之ほか：気管支形成術時に用いたプレジェットのピットフォールの1例 第140回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 3月17日(東京)

(講演・座長)

手塚憲志

講師 「安全な胸腔鏡手術」第2回埼玉呼吸器外科セミナー 3月11日(静岡)

■ 外科

原著論文

- 1) Koizumi K, Alonso S, Miyaki Y, Okada S, Ogura H, Shiiya N, Konishi F, Taya T, Perucho M, Suzuki K : Array-based identification of common DNA methylation alterations in ulcerative colitis. *International Journal of Oncology* 40 : 983-994 2012
- 2) Saito M, Suzuki K, Kato T, Okada S, Kamiyama H, Maeda T, Koizumi K, Miyaki Y, Kiyozaki H, Konishi F : The accumulation of DNA demethylation in Sat a in normal gastric tissues with *Helicobacter pylori* infection renders the susceptibility to gastric cancer in some fractions of individuals. *Oncology Reports* 2012 in press
- 3) Kamiyama H, Suzuki K, Maeda T, Koizumi K, Miyaki Y, Okada S, Kawamura YJ, JK Samuelsson, S Alonso, Konishi F, M Perucho : DNA demethylation in normal colon tissue predicts predisposition to multiple cancers. *Oncogene*. 2012 ; DOI : 10.1038/onc.2011.652
- 4) Miyaki M, Suzuki K, Koizumi K, Kato T, Saito M, Kamiyama H, Maeda T, Shibata K, Shiya M, Konishi F : Identification of a potent epigenetic biomarker for resistance to camptothecin and poor outcome to irinotecan-based chemotherapy in colon cancer. *International Journal of Oncology*.40 : 217-26 2012
- 5) Noda H, Kamiyama H, Kato T, Watanabe F, Toyama N, Konishi F : Risk Factor for Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy Performed by a Surgeon during a Learning Curve : Analysis of a Single Surgeon's Experiences of 100 Consecutive Patients. *Hepato-Gastroenterology*. 2012 ; DEC22 ; 59 (118). DOI 10.5754/hge11821
- 6) Noda H, Kamiyama H, Kato T, Watanabe F, Kakizawa N, Toyama N, Konishi F : Factors Influencing Improved Patient Outcomes after Pancreaticoduodenectomy - A Single Institute Experience of 209 Consecutive Patients in a Decade. *Hepato-Gastroenterology*. 2012 ; Feb 10 ; 59 (119). DOI 10.5754/hge11995
- 7) Tsujinaka S, Kawamura YJ, Tan KY, Mizokami K, Sasaki J, Maeda T, Kuwahara Y, Konishi F, Lefor A : Proximal bowel necrosis after high ligation of the inferior mesenteric artery in

colorectal surgery. *Scand J Surg*. 101 : 1-5 2012

- 8) Matsushita K, Tsujinaka S, Kuwahara Y, Kawamura YJ, Konishi F : Right colectomy with simultaneous vascular reconstruction for celiac and superior mesenteric arterial occlusion. *Int J Surg Case Rep*. 3 : 181-3 2012

学会発表

- 1) 渡部文昭、鈴木浩一、神山英範、野田弘志、高田理、河村 裕、小西文雄 : 大腸癌腹腔洗浄液中のDNAメチル化異常から再発リスクを予測する。第76回大腸癌研究会 2012.1.20 栃木
- 2) 辻仲眞康、小西文雄、富樫一智、森嶋 計、佐々木純一、宮倉安幸、堀江久永、河村 裕、安田是和 : 大腸SM癌内視鏡的摘出後追加治療の適応基準に対する提案 : リンパ節転移のリスク分析からみたSM浸潤度基準線2000 μ mへの引き上げ。第76回大腸癌研究会 2012.1.20 栃木
- 3) 深野利恵子、濱中真菜実、辻仲眞康、大島美津子、佐々木智子、小西文雄 : ストーマ造設患者が退院後に便漏れを起こす要因についての検証。第36回埼玉ストーマ排泄リハビリテーション研究会 2012.1.21 さいたま
- 4) 濱中真菜実、深野利恵子、辻仲眞康、佐々木智子、静井幸子、小西文雄 : ストーマリハビリテーション充実化のための取り組み - ストーマ経過表と監査表を通して -。第36回埼玉ストーマ排泄リハビリテーション研究会 2012.1.21 さいたま
- 5) 辻仲眞康、早田邦康、加納良彦、小西文雄 : 大腸癌細胞の転移・浸潤の初期形成に寄与する、生酸素下でのポリアミン代謝とDNAメチル化の変化に関する検討。日本ポリアミン学会第3回年会 2012.1.26-27 さいたま
- 6) 千葉文博、早田邦康、小西文雄、川上正舒 : 癌悪液質におけるポリアミン代謝酵素SSATの脂質代謝への影響。日本ポリアミン学会第3回年会 2012.1.26-27 さいたま
- 7) 加納良彦、早田邦康、小西文雄 : ポリアミンによる抗腫瘍免疫抑制に関わるLFA-1発現抑制と遺伝子プロモーターのメチル化の変化。日本ポリアミン学会第3回年会 2012.1.26-27 さいたま
- 8) 早田邦康 : ポリアミンの新たな展開。日本ポリアミン学会第3回年会 2012.1.26-27 さいたま
- 9) 渡部文昭、野田弘志、遠山信幸、小西文雄 : TS-1を24コース施行し、著明な効果を認めた再発隣癌の1例。第25回関越DIF研究会 2012.1.28 さいたま
- 10) 蓬原一茂、井上賢一、小島誠人、斎藤 毅、秦

怜志、桜井孝志、山田博文、君塚 圭、山崎泰男、黒住昌史、田部井敏夫：術前または術後に化学療法が施行されたTriple Negative乳がんに対するTS-1追加療法の検討－Feasibility Study－SBCCSG-14（中間解析）. 第25回関東DIF研究会 2012.1.28 さいたま

- 11) 辻仲眞康、深野利恵子、佐々木智子、大島美津子、小西文雄：ストーマ近接部の状態からみた一時的ストーマの造設方法に関する検討. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会第29回学会総会 2012.2.2-3 福島
- 12) 深野利恵子、辻仲眞康、佐々木智子、大島美津子、小西文雄：ストーマ外来による継続看護の重要性～ストーマ狭窄を来し排便困難に陥ったクローン病症例を経験して. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会第29回学会総会 2012.2.2-3 福島
- 13) 千葉文博、清崎浩一、齊藤正昭、高田 理、吉田卓義、小西文雄：開腹術における再建評価－噴門側胃切除術後空腸パウチ間置法vs胃全摘術後パウチR-Y法. 第84回日本胃癌学会総会 2012.2.8-10 大阪
- 14) 齊藤正昭、鈴木浩一、清崎浩一、千葉文博、高田理、小西文雄：胃癌発癌過程におけるセントロメア領域の脱メチル化異常と染色体不安定性. 第84回日本胃癌学会総会 2012.2.8-10 大阪
- 15) 前田孝文、佐々木純一、河村裕、小西文雄：当科で大腸全摘術を選択しなかった潰瘍性大腸炎・家族性大腸腺腫症例. 第18回北関東外科機能温存治療研究会 2012.3.3 東京

その他

- 1) 小西文雄：大腸外科領域における最近の話題. 秩父外科医会 2012.1.16 秩父 講演
- 2) 小西文雄：被災地におけるストーマケア 対策と課題. 第36回埼玉ストーマ排泄リハビリテーション研究会 2012.1.21 さいたま 司会

著書・総説

- 1) 小西文雄：急性虫垂炎 イレウス（腸閉塞）小腸腫瘍 小腸の手術 盲管症候群 消化不良症候群、短腸症候群. NEWテキストシリーズ「NEW外科学」編集者 出月康夫、古瀬 彰、杉町圭蔵 出版 南江堂、2012、pp632-646
- 2) 森 俊幸、小西文雄：内視鏡外科手術の安全性：Surgical Trauma & Immunological Responses 侵襲と免疫. 編集千葉大学 平澤博之 発行メディカルビュー社 2012、Vol21 No.1 pp7-12

■ 一般・消化器外科

日本ポリアミン学会・第3回年會を、平成24年1月26～27日に主催した。会場となった、さいたま市民会館おおみや・小ホールには86名の学会員および非学会員研究者の参加者があり、活発な議論がなされた。

また、1月28日に日本ポリアミン学会・第3回年會主催（さいたま市教育委員会後援）で市民公開講座「あなたが知りたい本当の健康長寿食」を開催した。会場であるソニックシティ・小ホールには、254名の一般市民が来場した。

学会発表

- 1) 辻仲眞康、早田邦康、加納良彦、小西文雄. 大腸癌細胞の転移・浸潤の初期形成に寄与する、低酸素下で3のポリアミン代謝とDNAメチル化の変化に関する検討. 日本ポリアミン学会・第3回年會、さいたま市民会館おおみや・小ホール. 2012年1月26-27日（26日）（プログラム・抄録集p24）口演.
- 2) 加納良彦、早田邦康、小西文雄. ポリアミンによる抗腫瘍免疫抑制に関わるLFA-1発現抑制と遺伝子プロモーターのメチル化の変化. 日本ポリアミン学会・第3回年會、さいたま市民会館おおみや・小ホール. 2012年1月26-27日（26日）（プログラム・抄録集p25）口演.
- 3) 千葉文博、早田邦康、小西文雄、川上正舒. 癌悪液質におけるポリアミン代謝酵素SSATの脂質代謝への影響. 日本ポリアミン学会・第3回年會、さいたま市民会館おおみや・小ホール. 2012年1月26-27日（26日）（プログラム・抄録集p29）口演.
- 4) 早田邦康. ポリアミンの新たな展開. 日本ポリアミン学会・第3回年會. さいたま市民会館おおみや・小ホール. 2012年1月26-27日（27日）（プログラム・抄録集p31）、年會担当口演

■ 心臓血管外科

☆原著論文

- 1) Tanaka M, Kimura N, Yamaguchi A, Adachi H. In-hospital and Long-Term Results of Surgery for Acute Type A Aortic Dissection : 243 Consecutive Patients. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2012 18 (1) : 18-23
- 2) Kimura N, Itoh S, Nakae S, Axtell RC, Velotta JB, Bos EJ, Merk DR, Gong Y, Okamura H, Nagamine CM, Adachi H, Kornfeld H, Robbins

- RC, Fischbein MP : Interleukin-16 deficiency suppresses the development of chronic rejection in murine cardiac transplantation model. *J Heart Lung Transplant*. 2011 ; 30 : 1409-17.
- 3) Itoh S, Kimura N, Axtell RC, Velotta JB, Gong Y, Wang X, Kajiwara N, Nambu A, Shimura N, Adachi H, Iwakura Y, Saito H, Okumura K, Sudo K, Steinman L, Robbins RC, Nakae S, Fischbein MP : IL-17 Accelerates Allograft Rejection by Suppressing Regulatory T Cell Expansion. *Circulation*. 2011 Sep 13 ; 124 (11 Suppl) : S187-96
 - 4) Kimura N, Tanaka M, Kawahito K, Itoh S, Okamura H, Yamaguchi A, Ino T, Adachi H : Early- and long-term outcomes after surgery for acute type a aortic dissection in patients aged 45 years and younger. *Circ J*. 2011 ; 75 : 2135-43.
 - 5) Okamura H, Yamaguchi A, Noguchi K, Naito K, Yuri K, Adachi H : Hemodynamics and outcomes of aortic valve replacement with a 17- or 19-mm valve. *Asian Cardiovasc Thorac Ann* 18 : 450-455, 2010
 - 6) Okamura H, Yamaguchi A, Yoshizaki T, Nagano H, Itoh S, Morita H, Naito K, Yuri K, Adachi H : Clinical outcomes and hemodynamics of the 19-mm Perimount Magna bioprosthesis in an aortic position. *Circ J*. 2012 ; 76 : 102-8.
 - 7) Okamura H, Yamaguchi A, Nagano H, Itoh S, Morita H, Naito K, Yuri K, Adachi H : Mid-term outcomes after aortic valve replacement with the 17-mm St. Jude Medical Regent valve *Circ J*. 2012 ; 76 : 365-71
 - 8) 白石 学, 山口敦司, 由利康一, 根本一成, 内藤和寛, 野口権一郎, 安達秀雄 : 虚血性心疾患を伴うLeriche症候群に対する治療経験. *日心外会誌* 40 ; 86 ~ 88, 2011
 - 9) 白石 学, 山口敦司, 由利康一, 根本一成, 内藤和寛, 野口権一郎, 安達秀雄 : 冠動脈バイパス術後の心房細動についての検討. *日心外会誌* 40 ; 227 ~ 230, 2011
 - 10) 白石 学, 由利康一, 根本一成, 山口敦司, 安達秀雄 : ステントグラフト留置後の遅発性対麻痺に対する初期治療. *日血外会誌* 20 ; 47 ~ 51, 2011
 - 11) 白石 学, 村岡 新, 相澤 啓, 坂野康人, 上西祐一郎, 大木伸一, 齊藤 力, 三澤吉雄 : 下行大動脈置換術後に発症した腹部臓器虚血に対するステント治療. *胸部外科*64 ; 887 ~ 893, 2011
 - 12) 白石 学, 山口敦司, 野口権一郎, 安達秀雄 : 腹部大動脈瘤術後の片側腎筋壊死から急性腎不全を発症した1例. *日心外会誌*40 ; 255 ~ 258, 2011
 - 13) Manabu Shiraishi, Shinichi Ohki, Yoshio Misawa : Mycotic superior mesenteric pseudoaneurysm draining into a vein. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*. 12 : 91-93, 2011
 - 14) Manabu Shiraishi, Kei Aizawa, Shin-ichi Ohki, Yoshio Misawa : Thrombus arising from ascending aorta. *Eur J Cardiothorac Surg*. doi : 10.1016/j.ejcts.2011.04.032
 - 15) Manabu Shiraishi, Atsushi Yamaguchi, Hideo Adachi : Apico-aortic conduit for aortic stenosis in a patient with chronic thoracic wall infection. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*. 2011 advanced publishment in Dec 9.
 - 16) Manabu Shiraishi, Chieri Kimura, Taro Takeuchi, Kenichi Muramatsu : Late disruption of axillo-bifemoral bypass graft. *Eur J Cardiothorac Surg*. 2012 ; doi : 10.1093/ejcts/ezr309
 - 17) Manabu Shiraishi MD, Chieri Kimura MD, Atsushi Yamaguchi MD, PhD, Hideo Adachi MD, PhD : Cardiac varix in right atrium. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*. 2012 ; doi : 10.1093/icvts/ivs015
 - 18) Seguchi M, Wada H, Sakakura K, Kubo N, Ikeda N, Sugawara Y, Yamaguchi A, Ako J, Momomura S : Idiopathic pulmonary artery aneurysm. *Circulation*. 2011 ; 124 : e369-70.
 - 19) Chin JT, Troke JJ, Kimura N, Itoh S, Wang X, Palmer OP, Robbins RC, Fischbein MP : A Novel Cardioprotective Agent in Cardiac Transplantation : Metformin Activation of AMP-Activated Protein Kinase Decreases Acute Ischemia-Reperfusion Injury and Chronic Rejection. *Yale J Biol Med*. 2011 ; 84 : 423-32.
 - 20) Velotta JB, Kimura N, Chang SH, Chung J, Itoh S, Rothbard J, Yang PC, Steinman L, Robbins RC, Fischbein MP : α B-crystallin improves murine cardiac function and attenuates apoptosis in human endothelial cells exposed to ischemia-reperfusion. *Ann Thorac Surg*. 2011 ; 91 : 1907-13.
- ☆学会発表
- 1) 竹内紘子, 由利康一, 白杉岳洋, 牛木真理子, 佐藤健一郎, 田村 敦, 小日向聡行, 長野博司, 高橋雅弥, 森田英幹, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀

- 雄：25年前のパッチ形成が原因と思われた右大腿動脈仮性瘤の1症例。第150回血管外科症例検討会 2011年12月10日 大手町サンケイプラザ
- 2) 由利康一, 森田英幹, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄：血管ベーチエットの1例 第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 3) 森田英幹, 高橋雅弥, 田村 敦, 小日向聡行, 長野博司, 木村直行, 由利康一, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄：遺伝性出血性血管拡張症に合併したMRSA人工弁感染に対するBentall手術の1例。第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 4) 高橋雅弥, 長野博司, 小日向聡行, 森田英幹, 由利康一, 安達秀雄：腰動脈再建を要した解離性腹部大動脈瘤の1症例。第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 5) 長野博司, 小日向聡行, 高橋雅弥, 森田英幹, 由利康一, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄：術後レントゲンにて確認された中心静脈カテーテル留置の際のガイドワイヤー誤挿入の2自験例。第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 6) 小日向聡行, 由利康一, 吉崎隆道, 竹内紘子, 白杉岳洋, 牛木真理子, 佐藤健一郎, 田村 敦, 高橋雅弥, 長野博司, 森田英幹, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄：ステントグラフト内挿術が有効であった炎症性腹部大動脈瘤の1例。第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 7) 白石 学, 木村知恵里, 山口敦司, 安達秀雄：Cardiac Varix in the Right Atrium. 第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 8) 牛木真理子, 由利康一, 白杉岳洋, 竹内紘子, 佐藤健一郎, 小日向聡行, 高橋雅弥, 田村 敦, 長野博司, 安達晃一, 山口敦司, 安達秀雄：腹部大動脈瘤 術中遮断により血管損傷を生じた1例。第26回心臓血管外科ウインターセミナー 2012年2月16日～18日 蔵王国際ホテル
 - 9) 山口敦司, 由利康一, 安達晃一, 森田英幹, 長野博司, 小日向聡行, 高橋雅弥, 佐藤健一郎, 安達秀雄：外科パネルディスカッション。ACSに対するCABG。日本冠疾患学会雑誌 Vol.17 S318 第25回日本冠疾患学会学術集会 2011.12.17 大阪国際会議場
 - 10) Atsushi Tamura, Atsushi Yamaguchi, Koichi Yuri, Kenichiro Noguchi, Kazuhiro Naito, Hiroshi Nagano, Masaya Takahashi, Hideo Adachi：CLINICAL EXPERIENCE WITH A NEW VASCULAR GRAFT FREE FROM BIODEGRADABLE MATERIAL 19th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgeons (ASCVTS) May 26-29, 2011 Phuket, Thailand
 - 11) 岡村 誉, 山口敦司, 武部 学, 堀 大治郎, 伊藤 智, 森田英幹, 内藤和寛, 由利康一, 安達秀雄：二尖弁患者における大動脈基部置換術または上行(弓部)置換術併施症例の治療成績。第41回日本心臓血管外科学会 2011.2.23-25 東京
 - 12) 野村陽平, 堀 大治郎, 野口権一郎, 田中弘之：胸腹部大動脈人工血管置換後吻合部巨大仮性動脈瘤の一例。第19回日本血管外科学会関東甲信越地方会 2011年11月5日 聖マリアンナ医科大学病院
 - 13) 野村陽平, 堀 大治郎, 野口権一郎, 田中弘之, 由利康一：胸腹部大動脈瘤TEVAR後にグラフト感染および食道穿孔をきたした1例。第150回血管外科症例検討会 2011年12月10日 大手町サンケイプラザ
- ☆その他
- 1) 山口敦司 指定討論：虚血性重症僧帽弁逆流に対する外科治療戦略－自己弁温存僧帽弁置換術と弁形成術の比較。第64回日本胸部外科学会定期学術集会 2011.10.12 名古屋
 - 2) 田中正史 座長：末梢血管。第39回日本血管外科学会学術総会 2011.5.20-24 沖縄
 - 3) 伊藤 智 賞罰：平成23年度 科学研究費助成事業「若手研究(B)」
- ☆著書 総説
- 1) 安達秀雄：緊急例への対応は災害救助と同じ。HEART nursing 25 (3) : 1 2012
 - 2) 山口敦司：主幹部病変における冠血行再建術：PCI vs CABG。日本冠疾患学会雑誌17 (3) : 239-245, 2011
 - 3) 山口敦司, 安達秀雄：弁置換術＋上行置換術かBentall手術か－One point advice。今日の手術の適応と至適時期。文光堂, 東京, 113-114, 2011
 - 4) 山口敦司, 安達秀雄：討論2；CABGと上行大動脈－両側大腿動脈バイパス同時手術の検討。胸部外科 64 (13) : 1133-1134, 2011
 - 5) 山口敦司, 井野隆史：§ 5 弁膜疾患・不整脈疾患 5 三尖弁疾患－b 三尖弁置換術 心臓血管外科

テキスト改訂2版 中外医学社, 東京, 342-344, 2011

尚 上記業績は、これまでの「研究だより」に未掲載のものです。

■ 耳鼻咽喉科

<原著論文>

- 1) Kodama, K., Hara, M., Hasegawa, M., Matsuzawa, S., Shinnabe, A., Kanazawa, H., Yoshida, N., Iino, Y : Two cases of spontaneous regression of congenital cholesteatomas. Int J Pediatr Otorhinolaryngol. Epub 2011 Oct 5.
- 2) 長谷川雅世、原 真理子、松澤真吾、児玉 梢、新鍋晶浩、金沢弘美、滝沢克巳、椿 恵樹、金澤丈治、太田 康、飯野ゆき子：経過中に顔面神経断裂をきたした真珠腫術後耳の1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 83 (4) : 301-304, 2011.
- 3) Iino, Y : Clinical practice guidelines for the diagnosis and management of acute otitis media (AOM) in children in Japan. Auris Nasus Larynx. Epub 2011 Dec 23.

<学会発表>

- 1) Iino, Y., Yoshida, N., Kanazawa, H : Role of IgE in Eosinophilic Otitis Media. 11th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Symposium11-4, pp. 125. 2011, Japan, Dec. 8-9.
- 2) Yoshida, N., Matsuzawa, S., Hasegawa, M., Hara, M., Kodama, K., Shinnabe, A., Kanazawa, H., Iino, Y : The management for antrochoanal polyps in children. 11th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Free Papers-050, pp. 183. 2011, Japan, Dec. 8-9.
- 3) 金沢弘美、原 真理子、長谷川雅世、児玉 梢、新鍋晶浩、吉田尚弘、飯野ゆき子：二次性真珠腫（中心穿孔型真珠腫）の進展方向における考察. 第22回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会、2012年1月26-27日, pp91, 福島.
- 4) 飯野ゆき子：「好酸球性中耳炎の外来診療」第30回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 ランチョンセミナー1, 2012年2月16-17日, pp57, 滋賀.
- 5) 金沢弘美、吉田尚弘、飯野ゆき子：抗IgE抗体（オマリズマブ）の好酸球性中耳炎、副鼻腔炎への効果. 第30回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2012年2月16日, pp124, 滋賀.

<その他>

- 1) 黒野祐一、平川勝洋、飯野ゆき子：《座談会》アレルギー性鼻炎に合併する副鼻腔陰影の取り扱い－アレルギー性鼻副鼻腔炎の治療方針－. THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 64 (6), 345-53, Dec. 2011.
- 2) 飯野ゆき子：特別講演2, 「中耳炎に関する最近の話題」クラリス発売20周年記念講演会 IN 米子, 2012年1月20日, 鳥取.
- 3) 吉田尚弘：耳鼻咽喉科・アレルギー関連学会レポート「第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会」, 鼻アレルギーフロンティア（メディカルレビュー社）Vol.12/No.1, p46-47, 2012.

<著書・総説>

- 1) 吉田尚弘：【私の処方箋】鼻科学領域 術後性上顎嚢胞. JOHNS27 (9), 1378-79, 2011.
- 2) 飯野ゆき子：【耳鼻咽喉科感染症の完全マスター】診断・治療をマスターする中耳炎. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 83 (5), 221-27, 2011.

■ 産婦人科

学会発表

- 1) 今野 良, 根津幸穂, 小田切幸平, 藤原寛行, 鈴木光明, 満下淳地. 【シンポジウム】骨盤内慢性炎症性環境への影響からみた子宮内膜症薬物治療. 第33回日本エンドメトリオーシス学会, 2012年1月21-22日, 長崎.
- 2) 根津幸穂, 満下淳地, 浅尾有紀, 林 由梨, 小田切幸平, 今野 良. 子宮内膜症患者に対する食生活アンケート調査. 第33回日本エンドメトリオーシス学会, 2012年1月21-22日, 長崎.

著書、総説

- 1) 今野 良. ヒトパピローナウイルス感染と子宮頸癌ならびに頭頸部癌の関わり. 日本耳鼻咽喉科学会会報, 115 : 73-84, 2012.

その他

- 1) 今野 良. HPVワクチン時代の子宮頸がん検診. 日本臨床細胞学会山形県支部細胞診研修会, 2012年1月28日, 山形.
- 2) 今野 良. 近い将来の子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査のあり方. 平成23年度埼玉県細胞診講習会, 2012年1月29日, さいたま.
- 3) 今野 良. 子宮頸がん予防－小児科医・産婦人科医の役割. 大宮医師会産婦人科医会・大宮医師会

小児科医会合同講演会, 2012年2月8日, さいたま.

■ 歯科口腔外科

学会発表

- 1) 中山竜司, 篠崎泰久, 岡田成生, 仙名あかね, 山下雅子, 鹿志村圭, 土屋欣之, 伊藤弘人, 野口忠秀, 小佐野仁志, 神部芳則, 草間幹夫: 当科における重複癌症例の臨床的検討. 第30回日本口腔腫瘍学会総会, さいたま, 2012年1月26, 27日. (プログラム抄録集p125, 2012)
- 2) 岡本瑠珠, 小佐野仁志, 中井雄一郎, 草間幹夫: 頬部腫脹を初発症状とした小児B細胞リンパ芽球形リンパ腫の1例. 第30回日本口腔腫瘍学会総会, さいたま, 2012年1月26, 27日. (プログラム抄録集p173, 2012)
- 3) 秋元留美, 早坂純一, 木村 希, 大橋 望, 室井美佳, 梶 節子, 林 宏美, 小澤通子, 佐瀬美和子, 伊藤弘人, 野口忠秀, 小佐野仁志, 神部芳則, 草間幹夫: 大田原赤十字病院における歯科衛生士の立場からの口腔癌末期患者に対する在宅緩和ケアの取り組み. 第30回日本口腔腫瘍学会総会, さいたま, 2012年1月26, 27日. (プログラム抄録集p147, 2012)
- 4) 林 宏美, 早坂純一, 小澤通子, 佐瀬美和子, 伊藤弘人, 野口忠秀, 大橋一之, 小佐野仁志, 神部芳則, 草間幹夫: 当科におけるビスフォスフォネート注射用製剤使用患者の治療経験. 第21回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 宇都宮, 2012年3月16-18日.
- 5) 中井雄一郎, 磯田智代, 岡本瑠珠, 小佐野仁志, 草間幹夫, 土橋洋: 舌縁部に発生したリンパ上皮性嚢胞の1例. 第21回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 宇都宮, 2012年3月16-18日.

■ 病理部

【論文】

- 1) Saito M, Kiyozaki H, Chiba F, Takata O, Yoshida T, Shuto C, Yamada S, Konishi F: Early gastric cancer combined with multiple metachronous osteosclerotic bone and bone marrow metastases that responded to chemoradiotherapy. *Gastric Cancer* 14: 295-299, 2011
- 2) Takamatsu T, Toukai K, Ikeda M, Ushimaru S, Asano T, Matsumoto N, Iwaki T, Fukunishi M, Sagihara N, Miyatani H, Yoshida Y, Yamada

S: [A case of primary splenic angiosarcoma with intraperitoneal hemorrhage treated by transcatheter arterial embolization]. *Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi* 108: 658-664, 2011

- 3) Terasako K, Oshima K, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Ashizawa M, Sato M, Machishima T, Nakasone H, Kimura S, Kikuchi M, Okuda S, Kako S, Yamazaki R, Takeuchi K, Nishida J, Yamada S, Tanaka O, Kanda Y: Fulminant hepatic failure caused by adenovirus infection mimicking peliosis hepatitis on abdominal computed tomography images after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Intern Med* 51: 405-411, 2012
- 4) 高松徹, 東海浩一, 牛丸信也, 松本吏弘, 岩城孝明, 福西昌徳, 鷺原規喜, 宮谷博幸, 吉田行雄, 山田茂樹: 食道粘膜下腫瘍に対して粘膜切開後の直視下組織生検が診断に有用であった1例. *Gastroenterological Endoscopy* 53: 3023-3027, 2011.
- 5) 松本吏弘, 池田正俊, 東海浩一, 牛丸信也, 浅野岳晴, 高松徹, 岩城孝明, 福西昌徳, 鷺原規喜, 宮谷博幸, 吉田行雄, 山田茂樹: 短期間で形態変化がみられた胃hamartomatous inverted polypの1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 79: 68-69, 2011.
- 6) 野首光弘, 前田孝文, 桑原悠一, 谷口肇, 小西文雄, 岩城孝明, 吉田行雄, 山田茂樹. 右半結腸切除で治療された進行癌合併鋸歯状ポリポースの1例. *診断病理* 2011, 28: 211-215.
- 7) 八尾隆史, 菅井有, 岩下明德, 藤盛孝博, 九嶋亮治, 野首光弘, 三富弘之, 味岡洋一, 小西文雄. 大腸SSA/Pの病理組織学的特徴と診断基準. *胃と腸* 2011, 46: 442-448.
- 8) Yoshihiko Kanai, Shunsuke Endo, Kenji Tetsuka, Mitsuhiro Nokubi. Pleural solitary fibrous tumor with bullae. is it a microinvasive tumor? *Gen Thorac Cardiovascular Surg* 2012, 60: 122-124.
- 9) Tomoyuki Saito, Mizuho Kimoto, Syuichi Nakai, Aki Ikoma, Hideo Toyoshima, Masanobu Kawakami, Mitsuhiro Nokubi, San-e Ishikawa. Ectopic ACTH syndrome associated with large cell neuroendocrine carcinoma of the thymus. *Internal Medicine* 2011, 50: 1471-1475.

【学会・研究会】

- 1) 野首光弘, 河端美則, 山田茂樹. 下葉の無気肺硬化様所見を呈した肺腺癌の2切除例. 第100回

日本病理学会総会. 2011.4.28 横浜 (日病会誌
2011, 100 (1), p406)

■ 麻酔科

原著論文

- 1) Hiroki Aoyama, Yusuke Iizuka, Shiho Yamato, Yuji Otsuka, Akira Kajiura, Takanori Murayama : Upper gastrointestinal bleeding after intraoperative transesophageal echocardiography. Cardiovascular anesthesia Vol.15, 2011 : 1 : 245-248

学会発表

- 1) 長嶋小百合、千葉英美子、深津健、浅香佳代、青山泰樹、大塚祐史：術中心筋虚血評価における Circumferential Strain の有用性. 日本臨床麻酔学会第31回大会、宜野湾市、2011年11月3日-5日
- 2) 深津健、青山泰樹、大塚祐史：成人 Pierre Robin 症候群の気管挿管にエアウェイスコップが有用であった1症例. 日本臨床麻酔学会第31回大会、宜野湾市、2011年11月3日-5日
- 3) 梶浦明、大塚祐史、深津健、瀧澤裕、浅香佳代、竹内広幸、青山泰樹、村山隆紀：不整脈源性右室心筋症 (ARVC) により VT storm となった患者の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第31回大会、宜野湾市、2011年11月3日-5日
- 4) 青山泰樹、浅香佳代、長嶋小百合、大塚祐史：レミフェンタニル未溶解液誤投与事例の検討～ミズチバを防ぐには～. 日本臨床麻酔学会第31回大会、宜野湾市、2011年11月3日-5日

編集後記

今回の発行にあたりましては、大変お忙しい中、寺井先生をはじめ多くの先生方から投稿いただきました。ご協力ありがとうございました。

さて、少しずつ寒さが和らいでやっと春らしくなってきました。春といえば、天候にめぐまれ、希望に溢れる季節でもあります。同時に花粉症の季節でもあります。

代表的なスギ花粉症の時期は2月～4月頃で、その花粉症の正体は、花粉に対して人間の体が起こすアレルギー反応で、体の免疫反応が花粉に過剰に反応して、「くしゃみ」「鼻水」「涙」などの症状が出ることです。その原因となるスギは日本特有な木で、スギ花粉症が問題となっているのは、ほとんど日本だけだそうです。

予防策は帰宅後の洗顔、うがい、外出時のマスクの着用、また、花粉飛散時の洋服は花粉がつかないように毛織物は避けて、表面がすべすべした綿かポリエステルなどの化学繊維が良いとのこと。花粉症の人にとっては、もっともつらい時期ではありますが、十分な睡眠をとって疲労やストレスをためないようにすることが、大事なことです。

新年度が始まり、新しい職場環境で慣れない仕事も多いこの季節こそ特に注意したいものです。

(S)

自治医科大学附属さいたま医療センター 研究だより 第31号

発行日 平成24年4月20日
発行 自治医科大学附属さいたま医療センター
発行責任者 センター長 川上 正舒
編集 事務部 総務課
BSL 宿舎・研修施設事務室
〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
TEL. 048-647-2111
FAX. 048-648-5166
題字 川上 正舒 センター長

印刷 第一印刷(株)